

令和4年度 学校だより 12月号 11月30日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

「研究発表会」、そして「みのくん さわちゃん デー」と「朝市」

校長 前島 潤

早朝の校庭は冷たい空気に包まれ、ジョウビタキの鳴き声が響いています。季節は秋から冬へ。もう12月。いつの間に・・・という思いです。

11月12日(土)、本校の研究発表会が行われました。開催にあたり、保護者の皆様、地域の皆様にはご理解とご協力いただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。遠くは京都府や高知県から参会者があり、改めて山元小学校の「生活科・社会科を窓口とした学級経営・児童理解のための研究」が広く認知されていることを実感いたしました。

研究の目的はもちろん子どもたちのためにあります。子どもたちのよりよい学びの姿を目指すものです。教師が子ども一人ひとりを丁寧に見とりながら子どもの思いをつかみ、それを生かした授業を展開することで主体的に学ぶ姿をつくること。子どもたち自身が問いをもち、学級の仲間と対話しながら協働的に解決することで温かな人間関係をつくること。子どもが自分の学びを振り返ることで、自身の変容や成長に気付くことができるようにすること。この3つを研究の柱としています。

参会された方々から、子どもたちの姿に対して次のような肯定的なお言葉をいただきました。

- ・ 学びに向かう姿勢、共に協力し合い解を見つけ出す姿が見られました。
- ・ 子ども同士で信頼し合い、安心して学んでいることが伝わってきました。
- ・ お互いの意見を受け止める空気感があり、子どもたちの意見で授業が進んでいて素敵でした。
- ・ 活発に意見を述べる姿から「話したい」「伝えたい」という意思を感じました。

時は少し戻りますが、11月5日(土)、箕沢地域ケアプラザで「みのくん さわちゃんデー」が開催されました。「みのくん」「さわちゃん」は、前年度に2年2組(現3年生)の子どもたちが考えたケアプラザのマスコットキャラクターです。生活科の学習「まちたんけん」を通して、子どもたちがケアプラザとつながり、様々な活動に取り組みました。キャラクターづくりはそのうちの一つです。そのお披露目の会として「みのくん さわちゃんデー」が開かれました。会では、子どもたちが考えた「健康体操」も紹介され、参加した元2年2組の子どもたちや元担任、保護者、地域の方みんなで体を動かしました。子どもたちはもちろん、その場にいた誰もが笑顔になる素敵な会でした。

また、11月27日(日)の山元商店街朝市には、2年2組と5年1組の子どもたちが、生活科、総合的な学習の時間の活動の一環として参加させていただき、朝市を盛り上げる活動をしたり、商店街の皆様と一緒に販売や抽選会のお仕事を行ったりしました。実際にお客様に対応する中で、子どもたちの表情は輝き、短い時間の中でも成長していることが感じられました。子どもたち、そして「まち」の皆様から元気をいただいて、私の心はこの日の天気のように晴れ渡りました。

本校の教育目標「自分を大切にする子 共に生きる子 山元の子」を具現化するために育てる子どもの力として、「身の回りの人や学校、地域のために役立つと行動する力」「様々な人々との出会いを大切に、進んでかかわる力」を掲げています。ケアプラザで、そして朝市で、子どもたちは、まさにその二つの力を発揮していました。「山元の子」として成長していることに喜びを感じた出来事でした。



日本で冬を過ごすジョウビタキ

早朝の山元町に「ヒーヒー」と甲高い鳥の音が響きます。中国北部などから渡って来たジョウビタキです。

秋から冬の間、日本で暮らします。オスは胸から腹にかけてオレンジ色の羽毛が目立ちます。メスは全体的に薄茶色の羽毛で覆われています。アンテナや木の枝など高い場所でよく鳴いています。

